カンボジア王国　「分娩時および新生児期を中心とした母子継続ケア改善プロジェクト」
～ Project for Improving Continuum of Care
with focus on Intrapartum and Neonatal Care in Cambodia (IINeoC Project)～

ニューズレター 第6号
2017年1月

カンボジアでは先日、中華圏のお正月である春節のお祝いが終わったばかりです。1月1日よりはるかに盛り上がりを見せ、プノンペンの街ではあちこちで太鼓や笛などのお囃子に合わせた獅子舞が繰り広げられました。カンボジアでは人々がお祝いするお正月が3つもあります。インターナショナル・ニュー・イヤーである1月1日、春節（例年1月~2月）、そして、カンボジア人にとってまさにお正月本番といったカンボジア（クメール）正月（例年4月）。カンボジア国民全体が、4月の正月大型連休を心待ちにしています。
プロジェクトでは、クメール正月の連休に突入する頃から、新生児室でケアやそれに関連した研修に使用する様々な医療機材を導入し、対象病院での新生児ケアの充実とトレーニング活動の環境づくりが大きな活動のひとつとなっており、2月、3月にかけて続々と医療機材が届く予定です。
今年度中に、保育器、持続陽圧呼吸療法装置（CPAP: Continuous Positive Air Pressure)、新生児用聴診器・喉頭鏡、新生児蘇生練習用マネキン、新生児蘇生用マスク＆バッグを調達し、それぞれの機材使用のトレーニングを順次行っていきます。

1月下旬に他の機材に先駆けて、持続陽圧呼吸療法装置(CPAP)が国立母子保健センターとコンポンチャム州病院に導入され、使用とメンテナンスにかかるトレーニングを行いましたのでその模様を報告します。

CPAPとは、新生児の気管に挿管することなく、安全に新生児の呼吸をサポートすることができる医療機器です。肺を保護しながら新生児の自発呼吸を促し、特に、未熟児に起こりやすい呼吸不全を予防することができます。CPAPによる治療により、新生児の呼吸機能の早期改善が可能となり、新生児のケアの質の向上に繋がると期待されています。
国立母子保健センター新生児室とコンポンチャム州病院新生児室の病床数はそれぞれ20床ですが、これまで設置されていたCPAPは、国立母子保健センター3台、コンポンチャム州病院2台（うち、2台ともに故障しており使用不可）のみで、決して十分とは言えない状況でした。そこで本プロジェクトでは、国立母子保健センターに5台、コンポンチャム州病院に3台のCPAPを新たに導入し、CPAP導入と合わせて新生児科の医師、看護師に使用方法や管理・清掃方法についてのトレーニングを実施しました。
CPAP導入後も継続的にCPAPが必要な新生児に適切に使用されているか、適切に消毒ができているか等を含めた使用状況の確認や、医療機器に関して問題が発生した時にはサポートを実施して行く予定です。トレーニングを受けた医師や看護師がCPAPを活用し、少しでも多くの新生児の命が守られることを期待しています。

導入されたCPAP装置（手前）

コンポンチャム州病院新生児室スタッフも招へいし、国立母子保健センターにて合同で使用およびメンテナンスに関する研修を行いました。

研修の様子。国立母子保健センター新生児室副医長が説明しています。

コンポンチャム州病院にもCPAPを供与しました。
（写真左：コンポンチャム州保健局副局長）